

履修科目一覧

動物看護学科												
愛玩動物看護師専攻												
1年				2年				3年				
科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁	科目	前期	後期	頁	
動物形態機能学	○	○	11	動物繁殖学	○		30	生命倫理・動物福祉	○		52	
動物行動学		○	12	動物栄養学	○	○	31	比較動物学	○	○	53	
動物関連法規 (動物愛護・適性飼養関連法規含)	○		13	動物病理学		○	32	動物薬理学	○	○	54	
動物看護学概論		○	14	動物感染症学Ⅱ	○	○	33	公衆衛生学	○	○	55	
動物感染症学Ⅰ		○	15	動物内科看護学Ⅱ	○		34	動物内科看護学Ⅲ	○		56	
動物内科看護学Ⅰ	○		16	動物外科看護学Ⅱ	○		35	動物臨床看護学各論Ⅱ	○	○	57	
動物外科看護学Ⅰ	○		17	動物臨床看護学各論Ⅰ	○	○	36	動物生活環境学		○	58	
動物臨床看護学総論		○	18	人と動物の関係学	○		37	動物形態機能学実習		○	59	
動物臨床検査学 (臨床検査学実習含)	○	○	19	適正飼養指導論	○	○	38	動物内科看護学実習Ⅲ		○	60	
愛玩動物学	○	○	20	ペット関連産業概論		○	39	動物外科看護学実習Ⅲ	○		61	
動物内科看護学実習Ⅰ	○	○	21	動物内科看護学実習Ⅱ		○	40	動物臨床看護学実習Ⅱ	○		62	
動物外科看護学実習Ⅰ		○	22	動物臨床検査学実習	○	○	41	動物看護総合実習Ⅲ	○		63	
動物看護総合実習Ⅰ		○	23	動物外科看護学実習Ⅱ		○	42	グルーミング実習Ⅲ	○		64	
グルーミング実習Ⅰ	○	○	24	動物臨床看護学実習Ⅰ		○	43	動物飼育管理実習Ⅲ	○	○	65	
しつけトレーニング実習Ⅰ	○	○	25	動物愛護・適性飼養実習		○	44	応用動物看護学実習	○		66	
動物飼育管理実習Ⅰ	○	○	26	動物看護総合実習Ⅱ		○	45	動物介護学	○		67	
検定対策Ⅰ	○	○	27	グルーミング実習Ⅱ	○		46	国試対策		○	68	
就職実務Ⅰ	○	○	28	しつけトレーニング実習Ⅱ	○		47	検定対策Ⅲ	○	○	69	
パソコン実習	○		29	動物飼育管理実習Ⅱ	○	○	48	就職実務Ⅲ	○		70	
				検定対策Ⅱ		○	49					
				就職実務Ⅱ	○	○	50					
				動物医療コミュニケーション	○		51					

科目名	動物形態機能学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	120時間	単位数	4単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の生命維持のしくみを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の形態機能を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第4回目	生命のすがた①	体を形つくる基本物質、細胞のしくみと働き、遺伝情報
第5回目～第8回目	生命のすがた②	各組織の働き、器官の成り立ちと維持、調節システム
第9回目～第12回目	血液と造血器①	血球成分と血漿成分、赤血球の構造と機能、
第13回目～第16回目	血液と造血器②	白血球の構造と機能、血小板機能と血液凝固機構及び線維素溶解
第17回目～第20回目	血液循環とその調節①	循環器系の概要、心臓のしくみと働き、心電図、
第21回目～第24回目	血液循環とその調節②	血管のしくみと働き、血液循環、
第25回目～第28回目	生体の防御機構①	生体を守る防御機構、
第29回目～第32回目	生体の防御機構②	自然免疫、獲得免疫
第33回目～第36回目	脳と神経①	脳と神経系の役割、各神経系、興奮・抑制シナプス、
第37回目～第40回目	脳と神経②	神経伝達物質、脳の構成要素、脳神経、脊髄と脊髄神経、自律神経系、行動の神経調節
第41回目～第44回目	感覚と情報伝達①	各感覚系の働き(体性感覚、嗅覚、味覚)
第45回目～第48回目	感覚と情報伝達②	各感覚系の働き(聴覚と平衡感覚、視覚)
第49回目～第52回目	体の支持と運動①	体の位置・方向を示す用語と表面解剖学的区分、骨格
第53回目～第56回目	体の支持と運動②	骨格筋
第57回目～第60回目	外皮系と体温調節①	外皮、皮膚の付属器官
第61回目～第64回目	外皮系と体温調節②	皮膚による体温調節
第65回目～第68回目	呼吸とその調節	呼吸器の構造、呼吸
第69回目～第72回目	内分泌とホルモン①	内分泌、各種ホルモン、内分泌系の基本構造と機能
第73回目～第76回目	内分泌とホルモン②	視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎、ランゲルハンス島、消化管ホルモンの機能
第77回目～第80回目	まとめ	1年間のまとめ

科目名	動物行動学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	吉田 卓史	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の調和に関わることを学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物行動学の 基本概念①	動物行動学の発展、行動学研究の4分野
第2回目	動物行動学の 基本概念②	行動の進化と適応
第3回目	維持行動の意味と効果①	摂食行動、飲水行動、
第4回目	維持行動の意味と効果②	排泄行動、身づくろい行動、護身行動
第5回目	社会行動①	群れの社会構造
第6回目	社会行動②	生殖行動
第7回目	社会行動③	コミュニケーション行動
第8回目	社会行動④	敵対行動と親和的行動
第9回目	行動発現のしくみ①	行動の動機づけと脳による行動の制御
第10回目	行動発現のしくみ②	行動の周期性
第11回目	行動の発達と学習①	行動の発達
第12回目	行動の発達と学習②	遺伝的要因と環境要因が行動発達に与える影響、馴化と感作
第13回目	行動の発達と学習③	古典的条件付けとオペラント条件付け
第14回目	問題行動と行動診療①	問題行動とは、問題行動診療とは
第15回目	問題行動と行動診療②	問題行動治療の実際の手順
第16回目	問題行動と行動診療③	問題行動診療で用いるその他の方法
第17回目	犬と猫における 主な問題行動①	攻撃行動
第18回目	犬と猫における 主な問題行動②	犬の恐怖・不安に起因する問題行動、猫の排泄に関する問題行動
第19回目	犬と猫における 主な問題行動③	犬と猫の常同障害、犬と猫の高齢性認知機能不全
第20回目	まとめ	総まとめ、演習問題

科目名	動物関連法規		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	内田 知志	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物関連法規を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護関連法規①	法の体系
第2回目	動物看護関連法規②	獣医療に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり
第3回目	動物看護関連法規③	愛玩動物看護師法の目的・定義
第4回目	動物看護関連法規④	獣医師法、獣医療法
第5回目	動物看護関連法規⑤	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律
第6回目	動物看護関連法規⑥	狂犬病予防法
第7回目	動物看護関連法規⑦	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律
第8回目	動物看護関連法規⑧	麻薬及び向精神薬取締法
第9回目	動物看護関連法規⑨	毒物及び劇物取締法
第10回目	動物看護関連法規⑩	まとめ
第11回目	動物愛護・適正飼養関連法規①	愛護・適正飼養に関連する法規と愛玩動物看護師の関わり、動物の愛護及び管理に関する法律
第12回目	動物愛護・適正飼養関連法規②	動物の愛護及び管理に関する法律
第13回目	動物愛護・適正飼養関連法規③	愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律
第14回目	動物愛護・適正飼養関連法規④	身体障害者補助犬法
第15回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑤	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場等に関する法律
第16回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑥	生物多様性の概要、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
第17回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑦	絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約
第18回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑧	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律
第19回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑨	鳥獣保護法、ラムサール条約
第20回目	動物愛護・適正飼養関連法規⑩	自然公園法における野生動植物保護、文化財保護法における飼育動物や野生生物の保護に関する制度

科目名	動物看護学概論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物看護学概論を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護の基本①	動物看護の目的、概念について理解する
第2回目	動物看護の基本②	獣医療と動物看護の歴史について理解する
第3回目	動物看護の基本③	獣医療倫理、動物看護者の倫理綱領について理解する
第4回目	動物看護の基本④	動物にとっての健康、福祉、QOLについて理解する
第5回目	動物看護の基本⑤	動物病院における愛玩動物看護師の役割について理解する
第6回目	動物看護の提供体制①	社会における動物病院の役割について理解する
第7回目	動物看護の提供体制②	一次診療と二次診療、救急獣医療の役割と連携について理解する
第8回目	動物看護の提供体制③	インフォームドコンセントについて理解する
第9回目	動物看護の提供体制④	セカンドオピニオン、守秘義務について理解する
第10回目	動物看護の提供体制⑤	診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する
第11回目	動物看護の提供体制⑥	職場における労働安全衛生、危険の防止・対処法について理解する
第12回目	動物看護の提供体制⑦	診療録(カルテ)と動物看護記録の作成、保存義務について理解する
第13回目	動物看護の提供体制⑧	職場における危険の防止・対処法について理解する
第14回目	動物看護の提供体制⑨	職場における労働安全衛生について理解する
第15回目	愛玩動物看護師とは①	愛玩動物看護師の職能団体について理解する
第16回目	愛玩動物看護師とは②	愛玩動物看護師の資格制度と資格認定機関について理解する
第17回目	愛玩動物看護師とは③	愛玩動物看護師の業務範囲について理解する
第18回目	愛玩動物看護師とは④	愛玩動物看護師に関するその他の代表的な組織・団体について理解する
第19回目	愛玩動物看護師とは⑤	国際的な動物看護師の業務や資格制度の違いについて理解する
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物感染症学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	内田 知志	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物感染について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	微生物の分類と特徴①	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第2回目	微生物の分類と特徴②	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第3回目	微生物の分類と特徴③	細菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第4回目	微生物の分類と特徴④	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第5回目	微生物の分類と特徴⑤	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第6回目	微生物の分類と特徴⑥	ウイルスの分類、形態、増殖方法及び病原性
第7回目	微生物の分類と特徴⑦	真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第8回目	微生物の分類と特徴⑧	真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第9回目	微生物の分類と特徴⑨	真菌の分類、形態、増殖方法及び病原性
第10回目	微生物検査①	検体採取と取扱い
第11回目	微生物検査②	無菌環境下での必要な手技
第12回目	微生物検査③	微生物染色法、顕微鏡による観察法
第13回目	微生物検査④	微生物染色法、顕微鏡による観察法
第14回目	微生物検査⑤	微生物培養法
第15回目	微生物検査⑥	微生物培養法
第16回目	微生物検査⑦	抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法
第17回目	微生物検査⑧	抗原検出法、抗体検出法、遺伝子検出法
第18回目	微生物検査⑨	薬剤感受性試験
第19回目	微生物検査⑩	薬剤感受性試験
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	健康の保持・増進①	健康診断の内容と目的
第2回目	診療補助に必要な技術①	診察における愛玩動物看護師の役割
第3回目	診療補助に必要な技術②	診察室の準備と衛生管理
第4回目	診療補助に必要な技術③	動物種ごとの適切な接し方
第5回目	診療補助に必要な技術④	動物種ごとの適切な接し方
第6回目	診療補助に必要な技術⑤	保定の基本的な原理、目的、方法
第7回目	診療補助に必要な技術⑥	保定の基本的な原理、目的、方法
第8回目	診療補助に必要な技術⑦	体重、体温、脈拍、呼吸
第9回目	診療補助に必要な技術⑧	意識レベル、粘膜色
第10回目	診療補助に必要な技術⑨	股動脈圧、毛細血管再充満時間(CRT)
第11回目	診療補助に必要な技術⑩	浅在リンパ節
第12回目	検査・処置に必要な技術①	注射器の取扱い及び管理方法
第13回目	検査・処置に必要な技術②	注射器の取扱い及び管理方法
第14回目	検査・処置に必要な技術③	採血の目的と方法
第15回目	検査・処置に必要な技術④	採血の目的と方法
第16回目	検査・処置に必要な技術⑤	採尿の目的と方法
第17回目	検査・処置に必要な技術⑥	穿刺と吸引
第18回目	検査・処置に必要な技術⑦	各種カテーテル挿入、酸素吸入
第19回目	検査・処置に必要な技術⑧	マイクロチップの挿入
第20回目	検査・処置に必要な技術⑨	学期末試験対策、復習

科目名	動物外科看護学 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	外傷、創傷管理①	創傷の種類と治癒過程と管理方法
第2回目	外傷、創傷管理②	創傷の種類と治癒過程と管理方法
第3回目	外傷、創傷管理③	ドレーンの装着と管理法
第4回目	外傷、創傷管理④	止血法
第5回目	外傷、創傷管理⑤	骨折・脱臼の管理
第6回目	術前準備①	術前手続(飼い主への説明、承諾書など)や術前検査
第7回目	術前準備②	無菌的処置の重要性、手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法
第8回目	術前準備③	手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌法
第9回目	術前準備④	手術器具の準備と滅菌法
第10回目	術前準備⑤	手術室の機器類(無影灯、電気メス本体など)、準備
第11回目	術前準備⑥	器械台の準備
第12回目	術前準備⑦	器械台の準備
第13回目	術前準備⑧	動物の適切なポジショニング
第14回目	術前準備⑨	術野の消毒
第15回目	術前準備⑩	手洗い、手術着・手袋の着用法
第16回目	術前準備⑪	手洗い、手術着・手袋の着用法
第17回目	救急救命①	エマージェンシーの原因と病態
第18回目	救急救命②	一次救命措置(BLS)、二次救命措置(ALS)
第19回目	救急救命③	気管挿管と心肺蘇生の方法
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習



科目名	動物臨床看護学総論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松本 里海	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学総論を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程の展開①	動物看護過程の目的や意義、方法について理解する
第2回目	動物看護過程の展開②	動物看護過程の各ステップについて理解する
第3回目	動物看護過程の展開③	アセスメントについて理解する
第4回目	動物看護過程の展開④	事例ごとの個別性、情報の整理と解釈について理解する
第5回目	動物看護過程の展開⑤	問題の明確化と動物看護計画の立案について理解する
第6回目	動物看護過程の展開⑥	動物看護過程の実施と評価について理解する
第7回目	診療記録①	診療録(カルテ)の作成方法について理解する
第8回目	診療記録②	動物看護記録の目的や書式、事例に応じた作成法について理解する
第9回目	診療記録③	実際にカルテを作成する
第10回目	動物看護業務①	チーム獣医療における愛玩動物看護師の役割について理解する
第11回目	動物看護業務②	ケアの標準化について理解する
第12回目	動物看護業務③	事故管理、防止システムについて理解する
第13回目	動物看護業務④	若齢動物看護の特徴について理解する
第14回目	動物看護業務⑤	高齢動物看護の特徴や褥瘡について理解する
第15回目	動物看護業務⑥	家庭での継続看護を視野に入れた退院計画・指導について理解する
第16回目	ターミナルケア技術①	ターミナルケアの目的と意義について理解する
第17回目	ターミナルケア技術②	QOL やホスピス、緩和ケアについて理解する
第18回目	ターミナルケア技術③	グリーフケアについて理解する
第19回目	ターミナルケア技術④	死亡した動物への対応とエンゼルケアについて理解する
第20回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物臨床検査学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	45時間	単位数	2単位
授業方法	講義・実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	小和田 友美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	臨床検査学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	臨床検査の基礎①	臨床検査における愛玩動物看護師の役割、基準値、感度、特異度、精度管理
第3回目～第4回目	臨床検査の基礎②	検体採取法(血液、尿、便、粘膜、スワブ、体表組織など)
第5回目～第6回目	血液検査①	血漿、血清の分離法、全血球計算法(CBC)
第7回目～第8回目	血液検査②	血液塗抹の作製及び観察法
第9回目～第10回目	血液検査③	ヘマトクリット管を用いた検査、凝固検査の目的と意義
第11回目～第12回目	血液検査④	血液化学検査の目的と意義
第13回目～第14回目	血液検査⑤	血液ガス検査の目的と意義、免疫学的検査の目的と意義
第15回目～第16回目	尿検査①	尿の性状検査
第17回目～第18回目	尿検査②	尿沈渣
第19回目～第20回目	糞便検査	虫卵・原虫の検出法、細菌の観察法
第21回目～第22回目	細胞診と病理組織検査	細胞診断の目的と方法、病理組織検査のための検体の取扱い
第23回目～第24回目	遺伝子検査	遺伝子検査の目的と応用例、検体の採取及び取扱い
第25回目～第26回目	検体検査実習①	検体採取・処理手順の習得
第27回目～第28回目	検体検査実習②	マイクロピペットや遠心分離器使用方法の習得
第29回目～第30回目	検体検査実習③	血漿、血清の分離の手順の習得

科目名	愛玩動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼養管理方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	歴史と品種①	犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第3回目～第4回目	歴史と品種②	犬の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第5回目～第6回目	歴史と品種③	猫の歴史と代表的な品種、その活用や被毛の手入れについて理解する
第7回目～第8回目	歴史と品種④	代表的なエキゾチック動物の種類と特徴、生態について理解する
第9回目～第10回目	歴史と品種⑤	血統と血統書について理解する
第11回目～第12回目	使役動物①	使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉について理解する
第13回目～第14回目	使役動物②	使役動物(犬、その他の動物)の歴史と福祉について理解する
第15回目～第16回目	使役動物③	補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の歴史と現状について理解する
第17回目～第18回目	使役動物④	補助犬(盲導犬、聴導犬、介助犬)の役割と育成、適性について理解する
第19回目～第20回目	使役動物⑤	その他の使役犬の種類と特徴及び現状について理解する
第21回目～第22回目	愛玩動物の飼養管理①	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第23回目～第24回目	愛玩動物の飼養管理②	犬の適切な飼養管理方法について理解する
第25回目～第26回目	愛玩動物の飼養管理③	猫の適切な飼養管理方法について理解する
第27回目～第28回目	愛玩動物の飼養管理④	愛玩鳥の適切な飼養管理方法について理解する
第29回目～第30回目	愛玩動物の飼養管理⑤	代表的なエキゾチック動物について理解する
第31回目～第32回目	動物の基本的な扱い①	動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する
第33回目～第34回目	動物の基本的な扱い②	動物を安全に散歩・運動・ふれあいさせることの意義について理解する
第35回目～第36回目	動物の基本的な扱い③	基本的グルーミングの目的・方法について理解する
第37回目～第38回目	動物の基本的な扱い④	基本的グルーミングの目的・方法について理解する
第39回目～第40回目	動物の基本的な扱い⑤	適切な飼養環境やストレスの緩和方法について理解する

科目名	動物内科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	身体検査①	全身状態、バイタルサインの評価
第3回目～第4回目	身体検査②	全身状態、バイタルサインの評価
第5回目～第6回目	診察補助業務①	診察の準備や診察室の衛生管理
第7回目～第8回目	診察補助業務②	基本的な保定、聴診器や体温計の扱い
第9回目～第10回目	診察補助業務③	基本的な保定、注射器の扱い
第11回目～第12回目	診察補助業務④	基本的な保定、注射器の扱い
第13回目～第14回目	診察補助業務⑤	基本的な保定、採血手順
第15回目～第16回目	診察補助業務⑥	基本的な保定、採血手順
第17回目～第18回目	診察補助業務⑦	基本的な保定、採血手順
第19回目～第20回目	診察補助業務⑧	基本的な保定、採血手順
第21回目～第22回目	診察補助業務⑨	基本的な保定、採尿手順
第23回目～第24回目	診察補助業務⑩	基本的な保定、採尿手順
第25回目～第26回目	診察補助業務⑪	基本的な保定、薬剤の取扱い
第27回目～第28回目	診察補助業務⑫	基本的な保定、薬剤の取扱い
第29回目～第30回目	診察補助業務⑬	基本的な保定、経口投与・注射の手順
第31回目～第32回目	診察補助業務⑭	基本的な保定、経口投与・注射の手順
第33回目～第34回目	診察補助業務⑮	基本的な保定、留置針設置の手順
第35回目～第36回目	診察補助業務⑯	基本的な保定、輸液ポンプ、シリンジポンプ
第37回目～第38回目	マイクロチップに関わる技術①	マイクロチップの適切な挿入部位
第39回目～第40回目	マイクロチップに関わる技術②	マイクロチップ装着手順

科目名	動物外科看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	術前準備①	手術器具の準備、滅菌
第2回目	術前準備②	手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌
第3回目	術前準備③	手術に必要な機器、器械台の準備
第4回目	術前準備④	手術台への動物の固定、術野の消毒
第5回目	術前準備⑤	手洗い、手術衣や手袋の装着
第6回目	術中補助①	麻酔器の各部名称や使用法
第7回目	術中補助②	モニター機器(心電図、血圧計など)の接続
第8回目	術中補助③	麻酔記録の作成
第9回目	術中補助④	直接補助(器械の受渡しなど)
第10回目	術中補助⑤	間接補助(无影灯、保温マットの操作など)
第11回目	術中補助⑥	歯科器具の取扱い、歯科処置(歯石除去など)の補助
第12回目	術後管理①	術後の創傷管理
第13回目	術後管理②	術後の創傷管理
第14回目	術後管理③	動物への包帯(粘着性、自着性など)の装着
第15回目	術後管理④	抜糸補助
第16回目	救急救命①	必要な機材、薬剤の準備
第17回目	救急救命②	気管挿管補助
第18回目	救急救命③	心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)
第19回目	救急救命④	心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物看護総合実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 後期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	診察室での飼い主対応や処置室での臨床症例を見学することで、実践に役立つ知識や技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

#### 授業計画内容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

##### 1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

##### 2. 実習(補助実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・保定
- ・避妊・去勢手術の流れ
- ・血液検査
- ・尿検査
- ・便検査
- など

##### 3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状
- ・実習を通して得た課題の確認

科目名	グルーミング実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	180時間	単位数	6単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	道具の使い方・グルーミング時の犬の扱い方を学ぶ。シャンプーコース(各部バリカン、部分カット含む)を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第6回目	トリミング道具	道具の説明・鉋の開閉
第7回目～第12回目	カット練習	ウィッグでブラッシングの練習
第13回目～第18回目	カット練習	ウィッグでカットの練習
第19回目～第24回目	シャンプー実習①	実習犬での爪切り、耳掃除、ブラッシング実習
第25回目～第30回目	シャンプー実習②	実習犬でのシャンプー実習
第31回目～第36回目	シャンプー実習③	実習犬でのシャンプー、部分カット実習
第37回目～第42回目	シャンプー実習④	実習犬でのシャンプー、部分カット実習
第43回目～第48回目	シャンプー実習⑤	実習犬でのシャンプー、部分カット実習
第49回目～第54回目	シャンプー実習⑥	実習犬でのシャンプー、部分カット実習
第55回目～第60回目	シャンプー実習⑦	実習犬でのシャンプー、部分カット実習
第61回目～第66回目	シャンプー実習⑧	実習犬でのシャンプー、ボディカット実習
第67回目～第72回目	シャンプー実習⑨	実習犬でのシャンプー、ボディカット実習
第73回目～第78回目	シャンプー実習⑩	実習犬でのシャンプー、ボディカット実習
第79回目～第84回目	シャンプー実習⑪	実習犬でのシャンプー、ボディカット実習
第85回目～第90回目	シャンプー実習⑫	実習犬でのシャンプー、ボディカット実習

科目名	しつけトレーニング実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	45時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	子犬や成犬の各ステージにおける。 トレーニング方法や問題行動予防方法を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ドッグトレーニングの基礎を身につけて、トレーニングの流れを理解する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニンググッズ及びPC(スマートフォン、タブレット可)		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ・Googelドキュメントによる報告書の作成と共有を行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	犬の行動	ボディランゲージと学習理論に基づいたトレーニング
第3回目～第4回目	生活トレーニング	飼育管理時の扱い方や散歩と運動について
第5回目～第6回目	社会化トレーニング①	社会化とは、社会化期の注意
第7回目～第8回目	社会化トレーニング②	社会化トレーニング(生活環境・人など)
第9回目～第10回目	社会化トレーニング③	社会化トレーニング(他の動物)
第11回目～第12回目	基礎トレーニング①	アイコンタクト、座る、伏せる、立つなどの一連の流れを教える
第13回目～第14回目	基礎トレーニング②	言葉と行動を関連付ける
第15回目～第16回目	応用トレーニング①	基礎トレーニングの内容を様々な環境下で実施
第17回目～第18回目	応用トレーニング②	基礎トレーニングの内容を様々な環境下で実施
第19回目～第20回目	問題行動の予防	問題行動への理解と予防策
第21回目～第22回目	トレーニングプラン	前期トレーニングの復習、後期のトレーニングプラン
第23回目～第24回目	課題トレーニング①	課題設定とトレーニングの実践
第25回目～第26回目	課題トレーニング②	課題トレーニングと結果の検証
第27回目～第28回目	課題トレーニング③	課題設定とトレーニングの実践
第29回目～第30回目	課題トレーニング④	課題トレーニングと結果の検証



科目名	動物飼育管理実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	飼育管理	学校飼育の心構え
第3回目～第4回目	飼育実習①	飼育管理方法
第5回目～第6回目	飼育実習②	飼育管理方法
第7回目～第8回目	飼育実習③	飼育管理方法
第9回目～第10回目	飼育実習④	飼育管理方法
第11回目～第12回目	飼育実習⑤	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第13回目～第14回目	飼育実習⑥	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第15回目～第16回目	飼育実習⑦	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第17回目～第18回目	飼育実習⑧	班で協力分担し、動物の飼育を実践する
第19回目～第20回目	飼育実習⑨	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第21回目～第22回目	飼育実習⑩	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第23回目～第24回目	飼育実習⑪	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第25回目～第26回目	飼育実習⑫	お互いの動きを把握し、効率よく実践する
第27回目～第28回目	飼育実習⑬	トラブルの対処法や予防策
第29回目～第30回目	飼育実習⑭	トラブルの対処法や予防策
第31回目～第32回目	飼育実習⑮	トラブルの対処法や予防策
第33回目～第34回目	飼育実習⑯	トラブルの対処法や予防策
第35回目～第36回目	飼育実習⑰	トラブルの対処法や予防策
第37回目～第38回目	飼育実習⑱	トラブルの対処法や予防策
第39回目～第40回目	飼育実習⑲	トラブルの対処法や予防策

科目名	検定対策 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛・高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践をみにつける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	愛玩動物飼養管理士①	課題問題1～10
第3回目～第4回目	愛玩動物飼養管理士②	課題問題11～20
第5回目～第6回目	愛玩動物飼養管理士③	課題問題21～30
第7回目～第8回目	愛玩動物飼養管理士④	課題問題31～40
第9回目～第10回目	愛玩動物飼養管理士⑤	課題問題41～50
第11回目～第12回目	愛玩動物飼養管理士⑥	課題問題51～60
第13回目～第14回目	愛玩動物飼養管理士⑦	課題問題61～70
第15回目～第16回目	愛玩動物飼養管理士⑧	課題問題71～80
第17回目～第18回目	愛玩動物飼養管理士⑨	課題問題81～90
第19回目～第20回目	愛玩動物飼養管理士⑩	課題問題91～111
第21回目～第22回目	愛玩動物飼養管理士⑪	総合演習
第23回目～第24回目	愛玩動物飼養管理士⑫	総合演習
第25回目～第26回目	社会人常識マナー①	社会常識①
第27回目～第28回目	社会人常識マナー②	社会常識②
第29回目～第30回目	社会人常識マナー③	コミュニケーション
第31回目～第32回目	社会人常識マナー④	ビジネスマナー
第33回目～第34回目	社会人常識マナー⑤	総合演習
第35回目～第36回目	社会人常識マナー⑥	総合演習
第37回目～第38回目	社会人常識マナー⑦	総合演習
第39回目～第40回目	社会人常識マナー⑧	総合演習

科目名	就職実務 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。又、職場体験に向けての準備をする。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職活動の基礎を学び、円滑な就職活動の準備をする。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	心構え	就職活動における心構えを理解する
第3回目～第4回目	履歴書準備①	履歴書に記載する内容の整理
第5回目～第6回目	履歴書準備②	履歴書に記載する内容の整理
第7回目～第8回目	履歴書準備③	履歴書に記載する内容の整理
第9回目～第10回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第11回目～第12回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第13回目～第14回目	履歴書作成①	履歴書を書く
第15回目～第16回目	履歴書作成②	履歴書を書く
第17回目～第18回目	身だしなみ①	就職活動における身だしなみを理解する
第19回目～第20回目	身だしなみ②	就職活動における身だしなみを理解する
第21回目～第22回目	自己啓発①	自分に自信を持つための自己啓発学習
第23回目～第24回目	自己啓発②	自分に自信を持つための自己啓発学習
第25回目～第26回目	自己啓発③	自分に自信を持つための自己啓発学習
第27回目～第28回目	求人票の見方	求人票の見方を理解する
第29回目～第30回目	社会保障①	社会保障制度について理解する
第31回目～第32回目	社会保障②	社会保障制度について理解する
第33回目～第34回目	働くこととは①	労働基準法について理解する
第35回目～第36回目	働くこととは②	仕事での課題解決方法を理解する
第37回目～第38回目	企業訪問①	企業訪問時のマナーや注意点について理解する
第39回目～第40回目	企業訪問②	企業訪問時のマナーや注意点について理解する

科目名	パソコン実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	1年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	社会人としての必須能力である文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	パソコンに関する知識、技術を身につけ、業務に役立てる。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	chromebook		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	パソコン基礎①	PCのシャットダウン、タイピング、データ保存
第2回目	パソコン基礎②	病院サイトのブログ作成
第3回目	パソコン基礎③	病院サイトのブログ作成
第4回目	パソコン基礎③	ビジネスメールの送信
第5回目	文書作成ソフト①	タイピング、文書の作成①
第6回目	文書作成ソフト②	タイピング、文書の作成②
第7回目	文書作成ソフト③	タイピング、文書の作成③
第8回目	文書作成ソフト④	チラシ作成①
第9回目	文書作成ソフト⑤	チラシ作成②
第10回目	表計算ソフト①	ワークシートの作成・編集①
第11回目	表計算ソフト②	連続データ、合計、平均
第12回目	表計算ソフト③	グラフ作成①
第13回目	表計算ソフト④	グラフ作成②
第14回目	表計算ソフト⑤	報告書作成①
第15回目	表計算ソフト⑥	報告書作成②
第16回目	表計算ソフト⑦	報告書作成②
第17回目	プレゼンテーションソフト ①	プレゼン資料の作成①
第18回目	プレゼンテーションソフト ②	プレゼン資料の作成②
第19回目	プレゼンテーションソフト ③	プレゼン資料の作成③
第20回目	プレゼンテーションソフト ④	発表

科目名	動物繁殖学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の繁殖について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生殖器の形態と機能①	生殖器(雄・雌)の基本構造について理解する
第2回目	生殖器の形態と機能②	主要な性ホルモンの名称、生産部位および標的器官について理解する
第3回目	生殖器の形態と機能③	雄の繁殖整理について理解する
第4回目	生殖器の形態と機能④	雌の繁殖整理について理解する
第5回目	性周期と交配①	生成熟と発情徴候について理解する
第6回目	性周期と交配②	排卵(自然排卵・交尾排卵)の仕組みについて理解する
第7回目	性周期と交配③	性周期と膣細胞スミアの関係について理解する
第8回目	性周期と交配④	交配適期の決定法について理解する
第9回目	妊娠と分娩①	着床・発生・妊娠・胎児の発育について理解する
第10回目	妊娠と分娩②	妊娠期間、偽妊娠について理解する
第11回目	妊娠と分娩③	分娩と助産、帝王切開について理解する
第12回目	妊娠と分娩④	去勢・不妊手術について理解する
第13回目	妊娠と分娩⑤	人工授精について理解する
第14回目	新生子管理①	新生子のための飼養環境について理解する
第15回目	新生子管理②	初乳の意義と哺乳について理解する
第16回目	新生子管理③	新生子の発育過程について理解する
第17回目	遺伝学概論①	遺伝のメカニズムについて理解する
第18回目	遺伝学概論②	さまざまな遺伝様式(顕性・潜性、伴性遺伝など)について理解する
第19回目	遺伝学概論③	遺伝子疾患、発生異常について理解する
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物栄養学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松本 里海	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の栄養についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	基礎栄養①	5大栄養素について理解する
第3回目～第4回目	基礎栄養②	栄養要求の種差について理解する
第5回目～第6回目	基礎栄養③	植生、嗜好、嗜好性、摂食行動について理解する
第7回目～第8回目	基礎栄養④	健康維持における栄養の持つ意味について理解する
第9回目～第10回目	基礎栄養⑤	栄養素の不足、過剰症について理解する
第11回目～第12回目	栄養要求量①	エネルギー要求量の意味と計算法について理解する
第13回目～第14回目	栄養要求量②	栄養基準について理解する
第15回目～第16回目	栄養要求量③	ライフステージごとの栄養管理について理解する
第17回目～第18回目	フードと栄養指導①	ペットフードの種類、分類について理解する
第19回目～第20回目	フードと栄養指導②	ペットフードの種類、分類について理解するラベル表示について理解し、飼い主に説明できる
第21回目～第22回目	フードと栄養指導③	中毒、与えてはいけないものについて飼い主に指導できる
第23回目～第24回目	フードと栄養指導④	栄養状態の評価法について理解する
第25回目～第26回目	フードと栄養指導⑤	肥満の弊害と減量プログラムの作成法について理解する
第27回目～第28回目	疾病と栄養①	さまざまな疾病時の食事療法について理解する
第29回目～第30回目	疾病と栄養②	療法食の特徴や効果を理解し、飼い主に説明できる
第31回目～第32回目	強制給餌と栄養法①	強制給餌の方法と注意点について理解する
第33回目～第34回目	強制給餌と栄養法②	経管栄養法の種類と特徴、方法について理解する
第35回目～第36回目	強制給餌と栄養法③	静脈栄養法の種類と特徴、方法について理解する
第37回目～第38回目	強制給餌と栄養法④	チューブやカテーテルの設置手順と管理上の注意点について理解する
第39回目～第40回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物病理学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物病理を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物病理学の基礎①	病理解剖と病理組織学的検査の目的、意義、病理組織標本の作製法
第2回目	動物病理学の基礎②	病理組織学的検査の実施手順
第3回目	細胞や組織に生じる変化①	変性と物質沈着、壊死とアポトーシス
第4回目	細胞や組織に生じる変化②	細胞増殖のメカニズム、再生と化生
第5回目	細胞や組織に生じる変化③	過形成と肥大、過形成と肥大
第6回目	循環障害①	充血とうっ血、出血の原因と病態
第7回目	循環障害②	血栓の成因
第8回目	循環障害③	虚血と梗塞
第9回目	循環障害④	浮腫と水腫
第10回目	循環障害⑤	ショックの原因と分類、病態
第11回目	循環障害⑥	播種性血管内凝固(DIC)
第12回目	炎症①	炎症の定義と5大主徴
第13回目	炎症②	炎症の分類と原因と特徴
第14回目	炎症③	炎症に関与する細胞と化学伝達物質、炎症の経過と治癒
第15回目	腫瘍①	腫瘍の定義と分類
第16回目	腫瘍②	腫瘍の原因と発生機序、腫瘍と宿主の関係
第17回目	腫瘍③	腫瘍の転移と進行
第18回目	先天異常①	遺伝子・染色体異常
第19回目	先天異常②	発生異常と奇形
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物感染症学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	小宮 智義・松村 隆弘	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の栄養についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書3巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	寄生虫の分類と特徴①	原虫の分類、形態、生活環及び病原性
第3回目～第4回目	寄生虫の分類と特徴②	原虫の分類、形態、生活環及び病原性
第5回目～第6回目	寄生虫の分類と特徴③	線虫の分類、形態、生活環及び病原性
第7回目～第8回目	寄生虫の分類と特徴④	線虫の分類、形態、生活環及び病原性
第9回目～第10回目	寄生虫の分類と特徴⑤	吸虫の分類、形態、生活環及び病原性
第11回目～第12回目	寄生虫の分類と特徴⑥	条虫の分類、形態、生活環及び病原性
第13回目～第14回目	寄生虫の分類と特徴⑦	衛生動物(ダニ、ノミなど)の分類、形態、生活環及び病原性
第15回目～第16回目	寄生虫の分類と特徴⑧	寄生虫疾患の検査、診断法
第17回目～第18回目	寄生虫の分類と特徴⑨	寄生虫疾患の検査、診断法、駆虫薬や駆除剤の使用法
第19回目～第20回目	動物感染症①	病原体の感染経路と伝播様式、感染症の成立要因
第21回目～第22回目	動物感染症②	犬猫の感染症(ウイルス)
第23回目～第24回目	動物感染症③	犬猫の感染症(ウイルス)
第25回目～第26回目	動物感染症④	犬猫の感染症(細菌・真菌)
第27回目～第28回目	動物感染症⑤	産業動物の感染症(ウイルス)
第29回目～第30回目	動物感染症⑥	産業動物の感染症(細菌・真菌・プリオン)
第31回目～第32回目	動物感染症⑦	実験動物・エキゾチックアニマルの感染症(ウイルス・細菌・真菌)
第33回目～第34回目	動物感染症⑧	消毒、滅菌法、院内感染の予防対策
第35回目～第36回目	免疫学の基礎と応用①	自然免疫と獲得免疫、液性免疫と細胞性免疫
第37回目～第38回目	免疫学の基礎と応用②	アレルギー(I～V型)と自己免疫疾患、ワクチンの原理と種類、接種プログラム
第39回目～第40回目	まとめ	学期末試験対策、復習



科目名	動物内科看護学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	投薬に関わる技術①	薬の処方
第2回目	投薬に関わる技術②	内服薬の使用法
第3回目	投薬に関わる技術③	薬剤の注射法
第4回目	投薬に関わる技術④	外用薬の使用法、薬浴の実施法
第5回目	投薬に関わる技術⑤	投薬前後の注意事項
第6回目	投薬に関わる技術⑥	投薬まとめ
第7回目	輸液に関わる技術①	輸液の適応とリスク
第8回目	輸液に関わる技術②	輸液計画
第9回目	輸液に関わる技術③	各種輸液剤の特性や適応
第10回目	輸液に関わる技術④	輸液中のモニタリング
第11回目	輸液に関わる技術⑤	輸液まとめ
第12回目	輸血に関わる技術①	輸血の適応とリスク
第13回目	輸血に関わる技術②	輸血計画
第14回目	輸血に関わる技術③	クロスマッチ試験と血液型
第15回目	輸血に関わる技術④	各種輸血製剤の適応や特性
第16回目	輸血に関わる技術⑤	輸血に関わる手技
第17回目	輸血に関わる技術⑥	輸血による副反応
第18回目	輸血に関わる技術⑦	輸血まとめ
第19回目	心電図と血圧に関わる技術①	心電図検査の目的と意義
第20回目	心電図と血圧に関わる技術②	心電図検査の実施方法

科目名	動物外科看護学Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松本 里海	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの周術期の流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	麻酔①	麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割
第2回目	麻酔②	麻酔リスクの評価(ASA 分類など)
第3回目	麻酔③	麻酔前投与(鎮静など)
第4回目	麻酔④	注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技
第5回目	麻酔⑤	吸入麻酔の手技
第6回目	麻酔⑥	導入時、覚醒時のリスクと対処法
第7回目	麻酔⑦	麻酔看視項目の監視方法、意義
第8回目	麻酔⑧	麻酔記録の作成法
第9回目	術中補助①	代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用法
第10回目	術中補助②	代表的な縫合材(縫合針、縫合糸)の分類と使用法
第11回目	術中補助③	代表的な歯科器具の名称と使用法
第12回目	術中補助④	直接補助(手袋着用下での補助)の内容
第13回目	術中補助⑤	間接補助(手術回りの補助)の内容
第14回目	術後管理⑥	麻酔覚醒後の動物のモニタリング
第15回目	術後管理⑦	疼痛管理の意義と方法
第16回目	術後管理⑧	術創管理と包帯法
第17回目	術後管理⑨	退院時の注意点と飼い主への説明事項
第18回目	動物理学療法①	動物理学療法の目的と意義
第19回目	動物理学療法②	代表的な理学療法の原理と手技
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学各論 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 博子	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床検査学各論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	徴候や疾患の理解と対処 ①	代表的な徴候や病態、疾患について理解する
第3回目～第4回目	徴候や疾患の理解と対処 ②	徴候の評価と記録法について理解する
第5回目～第6回目	徴候や疾患の理解と対処 ③	痛みの評価について理解する
第7回目～第8回目	徴候や疾患の理解と対処 ④	徴候・疾患に基づいた援助について理解する
第9回目～第10回目	代表的な疾患①	食欲不振・廃絶、元気喪失、発熱、疼痛、削瘦
第11回目～第12回目	代表的な疾患②	運動不耐、咳、心雑音、不整脈 など
第13回目～第14回目	代表的な疾患③	消化器・栄養代謝性疾患
第15回目～第16回目	泌尿器疾患①	急性腎障害(AKI)、慢性腎臓病(CKD)、腎盂腎炎、蛋白喪失性腎症(PLN)、尿路感染症
第17回目～第18回目	泌尿器疾患②	尿石症、膀胱炎、猫下部尿路疾患(FLUTD)、尿道閉塞症、レプトスピラ症
第19回目～第20回目	内分泌疾患①	甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症、糖尿病
第21回目～第22回目	内分泌疾患②	副腎皮質機能亢進症、副腎皮質機能低下症、尿崩症
第23回目～第24回目	生殖器疾患①	潜在精巣、前立腺炎、前立腺肥大
第25回目～第26回目	生殖器疾患②	子宮蓄膿症、偽妊娠、難産、腔脱
第27回目～第28回目	生殖器疾患③	乳腺炎、犬ブルセラ症、乳腺腫瘍
第29回目～第30回目	復習①	疾病への理解
第31回目～第32回目	復習②	代表的な疾患の種類
第33回目～第34回目	復習③	泌尿器疾患の対応について
第35回目～第36回目	復習④	内分泌疾患について
第37回目～第38回目	復習⑤	生殖器疾患について
第39回目～第40回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	人と動物の関係学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	人と動物の関係について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	人間と動物関わり①	動物の飼養・利用の歴史について理解する
第2回目	人間と動物関わり②	動物の飼養・利用の歴史について理解する
第3回目	人間と動物関わり③	欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する
第4回目	人間と動物関わり④	欧米と日本の動物観、動物との関わり方の相違について理解する
第5回目	人間と動物関わり⑤	動物の飼養と利用の現状について理解する
第6回目	人間と動物関わり⑥	動物の飼養と利用の現状について理解する
第7回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり①	動物虐待と対人暴力の運動性に関する基礎知識について理解する
第8回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり②	動物虐待と対人暴力の運動性に関する基礎知識について理解する
第9回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり③	多頭飼育崩壊について理解する
第10回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり④	多頭飼育崩壊について理解する
第11回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり⑤	愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼育困難になる様々な事情について理解する
第12回目	人間の福祉と愛玩動物の関わり⑥	愛玩動物が子供や高齢者に与える恩恵及び人間の加齢に伴って飼育困難になる様々な事情について理解する
第13回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育①	動物との接触が人間に与える身体的・心理的影響について理解する
第14回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育②	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する
第15回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育③	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育の目的と内容について理解する
第16回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育④	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に使用される動物の公衆衛生的、行動学的適正について理解する
第17回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育⑤	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する
第18回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育⑥	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育に対する動物病院や愛玩動物看護師の関わりについて理解する
第19回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育⑦	学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する
第20回目	動物介在活動・動物介在療法・動物介在教育⑧	学校飼育動物の目的や実態、愛玩動物看護師の関わりについて理解する

科目名	適正飼養指導論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松本 里海	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適正飼養指導論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	愛玩動物の飼養①	愛玩動物の適正飼養の目的、概念について理解する
第3回目～第4回目	愛玩動物の飼養②	愛玩動物飼養の現状について理解する
第5回目～第6回目	愛玩動物の飼養③	愛玩動物飼養によって人間が受ける影響と問題点について理解する
第7回目～第8回目	愛玩動物の飼養④	愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する
第9回目～第10回目	愛玩動物の飼養⑤	愛玩動物の飼養のニーズや目的を理解するとともに、飼い主の心情を理解し、必要な支援について理解する
第11回目～第12回目	適正飼養の推進①	適正飼養に関する支援の目的と活動について理解する
第13回目～第14回目	適正飼養の推進②	動物取扱業者における適正飼養について理解する
第15回目～第16回目	適正飼養の推進③	愛玩動物の過剰繁殖の問題とその対策について理解する
第17回目～第18回目	適正飼養の推進④	問題行動予防のための適切な飼養方法としつけ、飼い主に指導すべき事項や方法について理解する。
第19回目～第20回目	災害危機管理と支援①	災害時の同行避難の重要性を理解し、説明できる
第21回目～第22回目	災害危機管理と支援②	愛玩動物とその飼い主の災害の備えについて理解し、説明できる
第23回目～第24回目	災害危機管理と支援③	災害獣医療の概要と災害時における愛玩動物看護師の役割について理解する
第25回目～第26回目	動物愛護管理行政①	飼い主指導の基盤として、公衆衛生業務における愛玩動物看護師の役割について理解する
第27回目～第28回目	動物愛護管理行政②	動物愛護週間の役割と実施状況について理解する
第29回目～第30回目	動物愛護管理行政③	犬・猫の引取り及び負傷動物などの収容並びに処分の状況について理解する
第31回目～第32回目	動物愛護管理行政④	動物による事故の内容と報告状況について理解する
第33回目～第34回目	動物愛護管理行政⑤	動物愛護管理センターの活動及び動物愛護推進員・協議会の役割について理解する
第35回目～第36回目	動物愛護管理行政⑥	動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する
第37回目～第38回目	動物愛護管理行政⑦	動物取扱責任者の選任条件と役割について理解する
第39回目～第40回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	ペット関連産業概論		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	ペット関連産業概論を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	ペット関連産業における職業倫理①	責任と社会的役割を理解する
第2回目	ペット関連産業における職業倫理②	責任と社会的役割を理解する
第3回目	ペット関連産業における職業倫理③	商取引における関連法規の概要について理解する
第4回目	ペット関連産業における職業倫理④	商取引における関連法規の概要について理解する
第5回目	ペット関連産業における職業倫理⑤	動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する
第6回目	ペット関連産業における職業倫理⑥	動物の愛護及び管理に関する法律に基づく事前説明の意義や必要性、実施方法について理解する
第7回目	ペットの飼養実態と市場規模①	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する
第8回目	ペットの飼養実態と市場規模②	ペットの飼養実態及びペット関連産業の概要・市場規模について理解する
第9回目	各ペット関連産業の現状と課題①	ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。
第10回目	各ペット関連産業の現状と課題②	ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。
第11回目	各ペット関連産業の現状と課題③	ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。
第12回目	各ペット関連産業の現状と課題④	ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。
第13回目	各ペット関連産業の現状と課題⑤	ペットフード、ペット用品、ペット関連サービスの現状と課題を理解する。
第14回目	動物取扱業①	動物取扱業制度の概要について理解する
第15回目	動物取扱業②	動物取扱業制度の概要について理解する
第16回目	動物取扱業③	動物取扱業制度の概要について理解する
第17回目	動物取扱業④	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法
第18回目	動物取扱業⑤	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法
第19回目	動物取扱業⑥	動物取扱責任者として業務実施のために必要な実践的知識と動物の取扱方法や衛生管理に係る手法
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物内科看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵・高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生体検査①	心電図検査を実施し、結果を記録
第2回目	生体検査②	心電図検査を実施し、結果を記録
第3回目	生体検査③	X線撮影のための基本的な保定
第4回目	生体検査④	X線撮影のための基本的な保定
第5回目	生体検査⑤	放射線防護のための装備を正しく扱う
第6回目	生体検査⑥	超音波検査のための基本的な保定
第7回目	生体検査⑦	超音波検査のための基本的な保定
第8回目	生体検査⑧	神経学的検査の所見を記録
第9回目	生体検査⑨	神経学的検査の所見を記録
第10回目	生体検査⑩	神経学的検査の所見を記録
第11回目	生体検査⑪	眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助
第12回目	生体検査⑫	眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助
第13回目	生体検査⑬	眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助
第14回目	生体検査⑭	皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第15回目	生体検査⑮	皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第16回目	生体検査⑯	皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第17回目	生体検査⑰	皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第18回目	生体検査⑱	外耳道検査の補助
第19回目	生体検査⑲	外耳道検査の補助
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床検査学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	45時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	安中 靖	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	検体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	臨床検査学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	検体検査①	血液塗抹標本を作製、染色
第3回目～第4回目	検体検査②	血液塗抹標本を作製、染色
第5回目～第6回目	検体検査③	血液塗抹標本を観察し、白血球の百分比
第7回目～第8回目	検体検査④	全血球計算及び血液化学検査
第9回目～第10回目	検体検査⑤	全血球計算及び血液化学検査
第11回目～第12回目	検体検査⑥	簡易血清学的検査
第13回目～第14回目	検体検査⑦	尿検査を実施し、物理化学性状を記録
第15回目～第16回目	検体検査⑧	尿沈渣を観察し、所見を記録
第17回目～第18回目	検体検査⑨	糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出
第19回目～第20回目	検体検査⑩	糞便検査を実施し、虫卵及び原虫を検出
第21回目～第22回目	生体検査①	細胞診の準備、補助
第23回目～第24回目	生体検査②	心電図検査を実施し、結果を記録
第25回目～第26回目	生体検査③	X線検査の手技と注意点
第27回目～第28回目	生体検査④	X線撮影のための基本的な保定、放射線防護のための装備
第29回目～第30回目	生体検査⑤	超音波検査の手技と注意点



科目名	動物外科看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	阿部 温	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	麻酔①	麻酔処置時における愛玩動物看護師の役割
第2回目	麻酔②	麻酔リスクの評価(ASA 分類など)
第3回目	麻酔③	麻酔前投与(鎮静など)
第4回目	麻酔④	注射麻酔(局所麻酔を含む)の手技
第5回目	麻酔⑤	吸入麻酔の手技
第6回目	麻酔⑥	導入時、覚醒時のリスクと対処法
第7回目	麻酔⑦	麻酔看視項目の監視方法、意義
第8回目	麻酔⑧	麻酔記録の作成法
第9回目	術中補助①	代表的な手術器具(メス、鉗子など)の名称と使用法
第10回目	術中補助②	代表的な縫合材(縫合針、縫合糸)の分類と使用法
第11回目	術中補助③	犬の去勢手術
第12回目	術中補助④	犬の避妊手術
第13回目	術中補助⑤	猫の去勢手術
第14回目	術中補助⑥	猫の避妊手術
第15回目	術中補助⑦	直接補助(手袋着用下での補助)の内容
第16回目	術中補助⑧	間接補助(手術回りの補助)の内容
第17回目	術後管理①	麻酔覚醒後の動物のモニタリング
第18回目	術後管理②	疼痛管理の意義と方法
第19回目	術後管理③	術創管理と包帯法
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学実習 I		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程の実践①	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第2回目	動物看護過程の実践②	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第3回目	動物看護過程の実践③	事例を通して動物看護アプローチの個別性について考える
第4回目	動物看護過程の実践④	看護動物の生活環境(家族を含む)が健康に及ぼす影響について考える
第5回目	動物看護過程の実践⑤	看護動物の生活環境(家族を含む)が健康に及ぼす影響について考える
第6回目	動物看護過程の実践⑥	看護動物の生活環境(家族を含む)が健康に及ぼす影響について考える
第7回目	動物看護過程の実践⑦	症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響について考える
第8回目	動物看護過程の実践⑧	症状や入院・治療が看護動物と家族に及ぼす影響について考える
第9回目	動物看護過程の実践⑨	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付ける
第10回目	動物看護過程の実践⑩	看護動物の看護上の問題を理解し、優先順位を付ける
第11回目	動物看護過程の実践⑪	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第12回目	動物看護過程の実践⑫	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第13回目	動物看護過程の実践⑬	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第14回目	動物看護過程の実践⑭	看護動物の援助の内容・方法を立案できる
第15回目	動物看護過程の実践⑮	動物看護計画の作成
第16回目	動物看護過程の実践⑯	動物看護計画の作成
第17回目	動物看護過程の実践⑰	動物看護計画の作成
第18回目	動物看護過程の実践⑱	動物看護記録を作成
第19回目	動物看護過程の実践⑲	動物看護記録を作成
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物愛護・適正飼養実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松本 里海	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物の適正飼育を学び、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な実習になるが、テーマによっては一斉講義の機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	動物の基本的な扱い①	動物種に応じた安全なハンドリングができる
第3回目～第4回目	動物の基本的な扱い②	動物種に応じた安全なハンドリングができる
第5回目～第6回目	動物の基本的な扱い③	動物を安全に散歩・運動させることができる
第7回目～第8回目	動物の基本的な扱い④	動物を安全に散歩・運動させることができる
第9回目～第10回目	動物の基本的な扱い⑤	犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具を選択することができる
第11回目～第12回目	動物の基本的な扱い⑥	犬の散歩や運動、ふれあいのために、適切な道具を選択することができる
第13回目～第14回目	動物の基本的な扱い⑦	基本的なグルーミングを実施できる
第15回目～第16回目	動物の基本的な扱い⑧	基本的なグルーミングを実施できる
第17回目～第18回目	動物の基本的な扱い⑨	動物の飼養環境を適切に整備できる
第19回目～第20回目	動物の基本的な扱い⑩	動物の飼養環境を適切に整備できる
第21回目～第22回目	飼い主とのコミュニケーション①	犬や猫の品種に応じた特徴について説明できる
第23回目～第24回目	飼い主とのコミュニケーション②	動物の適切な飼養方法について指導できる
第25回目～第26回目	飼い主とのコミュニケーション③	動物の適切な飼養方法について指導できる
第27回目～第28回目	飼い主とのコミュニケーション④	飼い主が法令に基づき遵守すべき対応について指導できる
第29回目～第30回目	飼い主とのコミュニケーション⑤	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる
第31回目～第32回目	飼い主とのコミュニケーション⑥	動物の飼養が困難となっている飼い主への支援を説明できる
第33回目～第34回目	飼い主とのコミュニケーション⑦	避難所等災害時の飼い主への支援を説明できる
第35回目～第36回目	動物愛護管理行政①	動物愛護管理センターの活動を理解する
第37回目～第38回目	動物愛護管理行政②	動物取扱業へ指導すべき内容について理解する
第39回目～第40回目	動物愛護管理行政③	動物取扱業における顧客等への対応について実践

科目名	動物看護総合実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	座学での学びと実際の業務内容の結びつきを確認する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	30時間習得しなければならない。		

#### 授業計画内容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

##### 1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

##### 2. 実習(実践実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・血液検査
- ・尿検査
- ・便検査
- ・レントゲン検査の保定
- ・エコー検査の保定
- ・採血時の保定
- ・入院室管理
- など

##### 3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状
- ・実習を通して得た課題の確認

科目名	グルーミング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。また、全国動物専門学校協会主催 サロントリマー検定3級の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	カット実習①	実習犬でのカット実習
第4回目～第6回目	カット実習②	実習犬でのカット実習
第7回目～第9回目	カット実習③	実習犬でのカット実習
第10回目～第12回目	カット実習④	実習犬でのカット実習
第13回目～第15回目	カット実習⑤	実習犬でのカット実習
第16回目～第18回目	カット実習⑥	実習犬でのカット実習
第19回目～第21回目	カット実習⑦	実習犬でのカット実習
第22回目～第24回目	カット実習⑧	実習犬でのカット実習
第25回目～第27回目	カット実習⑨	実習犬でのカット実習
第28回目～第30回目	カット実習⑩	実習犬でのカット実習
第31回目～第33回目	カット実習⑪	実習犬でのカット実習
第34回目～第36回目	カット実習⑫	実習犬でのカット実習
第37回目～第39回目	カット実習⑬	実習犬でのカット実習
第40回目～第42回目	カット実習⑭	実習犬でのカット実習まとめ
第43回目～第45回目	カット実習⑮	実習犬でのカット実習まとめ(全動専検定含む)

科目名	しつけトレーニング実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	22時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	原田 文博	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	犬の学習理論に基づいたトレーニングの実践。併せて他人に説明をするためのインストラクションテクニックを身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	しつけ方教室の開催		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	ドッグトレーニンググッズ及びPC(スマートフォン、タブレット可)		
成績評価の方法・基準	出席率・授業態度に加え、実技試験にて成績を判定する。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ・Googleドキュメントによる報告書の作成と共有を行う		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	トレーニング立案	トレーニングプラン構築とトレーニングの実践
第2回目	しつけトレーニング①	グループで考えたトレーニングの実践
第3回目	しつけトレーニング②	グループで考えたトレーニングの実践
第4回目	しつけトレーニング③	実践したトレーニング内容をアドバイスする資料を作成
第5回目	問題行動①	ファミリー犬の問題行動について考えトレーニング
第6回目	問題行動②	問題行動トレーニング
第7回目	問題行動③	問題行動トレーニング
第8回目	しつけ方教室準備①	しつけ方教室の開催について説明・教室テーマ設定
第9回目	しつけ方教室準備②	テーマに合ったしつけ方教室の練習
第10回目	しつけ方教室準備③	しつけ方教室リハーサル
第11回目	しつけ方教室準備④	リハーサルしたしつけ方教室をより良くするためにはどうするかを考える
第12回目	しつけ方教室準備⑤	しつけ方教室最終調整
第13回目	しつけ方教室開催①	しつけ方教室実施
第14回目	しつけ方教室開催②	しつけ方教室実施
第15回目	まとめ	1年間の総まとめ

科目名	動物飼育管理実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身につける。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身につける。動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	動物管理①	1年生に飼育実習を教える
第3回目～第4回目	動物管理②	1年生に飼育実習を教える
第5回目～第6回目	動物管理③	1年生に飼育実習を教える
第7回目～第8回目	動物管理④	1年生に飼育実習を教える
第9回目～第10回目	動物管理⑤	飼育に関する技術の実践と応用
第11回目～第12回目	動物管理⑥	飼育に関する技術の実践と応用
第13回目～第14回目	動物管理⑦	飼育に関する技術の実践と応用
第15回目～第16回目	動物管理⑧	飼育に関する技術の実践と応用
第17回目～第18回目	動物管理⑨	飼育に関する技術の実践と応用
第19回目～第20回目	動物管理⑩	飼育に関する技術の実践と応用
第21回目～第22回目	動物管理⑪	飼育に関する技術の実践と応用
第23回目～第24回目	動物管理⑫	飼育に関する技術の実践と応用
第25回目～第26回目	動物管理⑬	飼育に関する技術の実践と応用
第27回目～第28回目	動物管理⑭	飼育に関する技術の実践と応用
第29回目～第30回目	動物管理⑮	飼育に関する技術の実践と応用

科目名	検定対策Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 後期
授業時数	67時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛・高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践をみにつける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	ペットフード/ペットマナー ①	ペットフードに関する基礎知識
第3回目～第4回目	ペットフード/ペットマナー ②	知識とマナーの向上
第5回目～第6回目	ペットフード/ペットマナー ③	ペットをめぐるトラブル
第7回目～第8回目	ペットフード/ペットマナー ④	総合演習
第9回目～第10回目	ペット栄養管理士①	ペットフード総論
第11回目～第12回目	ペット栄養管理士②	ペットフード総論
第13回目～第14回目	ペット栄養管理士③	ペットフード基礎栄養学
第15回目～第16回目	ペット栄養管理士④	ペットフード基礎栄養学
第17回目～第18回目	ペット栄養管理士⑤	ペットフード基礎栄養学
第19回目～第20回目	ペット栄養管理士⑥	ペット臨床栄養学
第21回目～第22回目	ペット栄養管理士⑦	ペット臨床栄養学
第23回目～第24回目	ペット栄養管理士⑧	ペット臨床栄養学
第25回目～第26回目	ペット栄養管理士⑨	ペット臨床栄養学
第27回目～第28回目	ペット栄養管理士⑩	総合演習
第29回目～第30回目	ペット栄養管理士⑪	総合演習
第31回目～第33回目	ペット栄養管理士⑫	総合演習
第34回目～第36回目	ペット栄養管理士⑬	総合演習
第37回目～第39回目	ペット栄養管理士⑭	総合演習
第40回目～第42回目	ペット栄養管理士⑮	総合演習
第43回目～第45回目	ペット栄養管理士⑯	総合演習



科目名	就職実務Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 通年
授業時数	75時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	面接対策や企業選択の方法などを学び、就職活動をより意識して対策を実施する		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	適切な企業選択と社会人としてのマナーを身につけて就職活動に備える		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	面接対策①	面接時の注意点、面接指導
第4回目～第6回目	面接対策②	面接時の注意点、面接指導
第7回目～第9回目	電話対策①	電話のかけ方、話し方
第10回目～第12回目	電話対策②	電話のかけ方、話し方
第13回目～第15回目	美文字練習①	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第16回目～第18回目	美文字練習②	ペン字を学び、きれいな字が書けるようにする
第19回目～第21回目	傾聴術①	傾聴について理解
第22回目～第24回目	傾聴術②	傾聴について理解
第25回目～第27回目	傾聴術③	傾聴実践
第28回目～第30回目	企業の選び方①	企業の選定方法、企業研究について
第31回目～第32回目	企業の選び方②	企業の選定方法、企業研究について
第33回目～第34回目	企業研究①	就職を視野に入れている企業について調べる
第35回目～第36回目	企業研究②	就職を視野に入れている企業について調べる
第37回目～第38回目	企業研究③	就職活動のための書類を準備する
第39回目～第40回目	話し方①	発声練習
第41回目～第42回目	話し方②	話題の作り方
第43回目～第44回目	心理学①	人の心のつかみ方
第45回目～第46回目	心理学②	好かれる人になるには
第47回目～第48回目	心理学③	深層心理
第49回目～第50回目	まとめ	1年間の総まとめ

科目名	動物医療コミュニケーション		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	2年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	松本 里海	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物医療コミュニケーションを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	クライアント①	適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供するための手法を学ぶ
第2回目	クライアント②	適正飼養について理解し、健康管理のため必要な情報を飼い主に提供するための手法を学ぶ
第3回目	クライアント③	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する
第4回目	クライアント④	動物と飼い主が良好な関係を構築する方法について理解する
第5回目	クライアント⑤	病気の適切な予防法について理解する
第6回目	クライアント⑥	病気の適切な予防法について理解する
第7回目	クライアント⑦	在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する
第8回目	クライアント⑧	在宅看護等におけるコミュニケーション技能について理解する
第9回目	院内コミュニケーション①	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する
第10回目	院内コミュニケーション②	飼い主への指導を主体としたインフォームドコンセントについて理解する
第11回目	院内コミュニケーション③	獣医療面接のプロセスについて理解する
第12回目	院内コミュニケーション④	獣医療面接のプロセスについて理解する
第13回目	院内コミュニケーション⑤	チーム獣医療に関するコミュニケーション技能について理解する
第14回目	院内コミュニケーション⑥	チーム獣医療に関するコミュニケーション技能について理解する
第15回目	院内業務①	受付業務について理解する
第16回目	院内業務②	受付業務について理解する
第17回目	院内業務③	物品購入や管理について理解する
第18回目	院内業務④	物品購入や管理について理解する
第19回目	院内業務⑤	ペット保険について理解する
第20回目	院内業務⑥	ペット保険について理解する

科目名	生命倫理・動物福祉		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	生命倫理・動物福祉を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書4巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	生命倫理の概念①	生命倫理の考え方
第2回目	生命倫理の概念②	生命倫理と獣医療の関わり
第3回目	動物福祉の概念①	動物福祉の考え方
第4回目	動物福祉の概念②	5つの自由
第5回目	動物福祉の概念③	世界と日本における近代及び現代の動物愛護運動
第6回目	動物福祉の概念④	「動物の権利」、「動物の福祉」思想や課題
第7回目	動物福祉の概念⑤	動物福祉の生理学的指標及び行動的指標による評価法について
第8回目	動物福祉の概念⑥	安楽死の考え方
第9回目	愛玩動物の福祉①	愛玩動物の適正飼養と福祉上の問題
第10回目	愛玩動物の福祉②	国内外の動物保護活動の現状と課題
第11回目	愛玩動物の福祉③	飼育放棄や殺処分問題、対策
第12回目	愛玩動物の福祉④	動物のみだりな殺傷・虐待の現状、対策
第13回目	愛玩動物の福祉⑤	飼養動物の災害時の対応
第14回目	産業動物の福祉①	産業動物における福祉上の問題
第15回目	産業動物の福祉②	国際的な福祉基準
第16回目	産業動物の福祉③	産業動物の福祉を向上させるための具体的方法
第17回目	実験動物の福祉①	実験動物における福祉上の問題
第18回目	実験動物の福祉②	3Rの概念と具体的方法
第19回目	展示動物の福祉①	展示動物における福祉上の問題
第20回目	展示動物の福祉②	展示動物に対する環境エンリッチメントの種類と内容

科目名	比較動物学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	比較動物学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書6巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	動物の種類及び特性①	飼養動物の種類及び特性について理解する
第4回目～第6回目	動物の種類及び特性②	野生動物の種類及び特性について理解する
第7回目～第9回目	動物の種類及び特性③	飼養動物と野生動物を比較しながら、その歴史、社会的位置づけ及び特徴について理解する
第10回目～第12回目	産業動物①	家畜の歴史と品種、特徴について理解する
第13回目～第15回目	産業動物②	各家畜の消化器の形態と機能、食性について理解する
第16回目～第18回目	産業動物③	各家畜の性周期と繁殖生理について理解する
第19回目～第21回目	産業動物④	各家畜の飼養施設の概要について理解する
第22回目～第24回目	産業動物⑤	各家畜の食性と飼養法について理解する
第25回目～第27回目	実験動物①	動物実験の目的、意義について理解する
第28回目～第30回目	実験動物②	代表的な実験動物の飼養管理、繁殖法について理解する
第31回目～第33回目	実験動物③	遺伝学的制御、微生物学的制御、環境制御について理解する
第34回目～第36回目	実験動物④	疾患モデル動物について理解する
第37回目～第39回目	野生動物①	野生動物の分類と生物多様性について理解する
第40回目～第42回目	野生動物②	鳥獣害の現状と保全の意義について理解する
第43回目～第45回目	野生動物③	絶滅危惧種の定義と含まれる動物、原因、保全方法について理解する
第46回目～第48回目	野生動物④	外来生物の定義、在来生態系に及ぼす影響、対策について理解する
第49回目～第51回目	展示動物①	展示動物の意義と動物園等の役割について理解する
第52回目～第54回目	展示動物②	動物園等における個体・群管理、行動管理について理解する
第55回目～第57回目	展示動物③	動物園等の施設管理について理解する
第58回目～第60回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物薬理学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物薬理学についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書2巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	動物薬理学の基礎①	獣医臨床における薬物治療の概念と目的について理解する
第3回目～第4回目	動物薬理学の基礎②	薬理作用とその発現機構について理解する
第5回目～第6回目	動物薬理学の基礎③	薬物動態と半減期、耐性について理解する
第7回目～第8回目	動物薬理学の基礎④	薬物間相互作用について理解する
第9回目～第10回目	動物薬理学の基礎⑤	副作用と中毒について理解する
第11回目～第12回目	薬物の取扱い①	獣医師による投薬量計算、薬物の適切な管理方法について理解する
第13回目～第14回目	薬物の取扱い②	各種投薬法を理解し、自宅での投薬を飼い主に指導できる
第15回目～第16回目	神経系の薬物について①	麻酔の種類や神経系に作用する薬について理解する
第17回目～第18回目	神経系の薬物について②	鎮静薬と抗けいれん薬、問題行動の治療に用いられる薬について理解する
第19回目～第20回目	呼吸器系の薬物について	呼吸興奮薬、鎮咳薬、気管支拡張薬について理解する
第21回目～第22回目	循環器・泌尿器の薬①	降圧薬、強心薬について理解する
第23回目～第24回目	循環器・泌尿器の薬②	抗不整脈薬、利尿薬について理解する
第25回目～第26回目	消化器に作用する薬①	制吐薬、制酸薬と胃粘膜保護薬、消化管運動調節薬について理解する
第27回目～第28回目	消化器に作用する薬②	止瀉薬、瀉下薬、肝疾患の治療に用いられる薬物、酵素製剤について理解する
第29回目～第30回目	代謝系の薬	オータコイド、代謝・内分泌系の薬物について理解する
第31回目～第32回目	血液・免疫系の薬①	抗貧血薬、血液凝固抑制薬、血液凝固促進薬について理解する
第33回目～第34回目	血液・免疫系の薬②	非ステロイド系抗炎症薬、免疫抑制薬について理解する
第35回目～第36回目	感染症に用いられる薬①	抗菌薬、抗真菌薬について理解する
第37回目～第38回目	感染症に用いられる薬②	駆虫薬、殺虫薬、消毒薬について理解する
第39回目～第40回目	悪性腫瘍の薬物	抗悪性腫瘍薬について理解する

科目名	公衆衛生学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	公衆衛生学についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書5巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	公衆衛生の概要①	公衆衛生の目的について理解する
第3回目～第4回目	公衆衛生の概要②	公衆衛生行政について理解する
第5回目～第6回目	公衆衛生の概要③	国民衛生の動向について理解する
第7回目～第8回目	公衆衛生の概要④	One Health と獣医療の関係について理解する
第9回目～第10回目	疫学と疾病予防①	感染の成立について理解する
第11回目～第12回目	疫学と疾病予防②	疾病・健康障害の発生要因について理解する
第13回目～第14回目	疫学と疾病予防③	疫学調査法について理解する
第15回目～第16回目	疫学と疾病予防④	予防疫学について理解する
第17回目～第18回目	疫学と疾病予防⑤	人獣共通感染症とその対策について理解する
第19回目～第20回目	疫学と疾病予防⑥	狂犬病予防について理解する
第21回目～第22回目	環境衛生①	環境衛生について、歴史、背景、現在の問題点について理解する
第23回目～第24回目	環境衛生②	化学物質によってもたらされる健康障害について理解する
第25回目～第26回目	環境衛生③	放射線による汚染と障害について理解する
第27回目～第28回目	環境衛生④	衛生動物による人や動物への被害と対策について理解する
第29回目～第30回目	環境衛生⑤	動物の咬傷による人への健康障害について理解する
第31回目～第32回目	環境衛生⑥	廃棄物の取扱いについて理解する
第33回目～第34回目	食品衛生①	食品衛生と食中毒について理解する
第35回目～第36回目	食品衛生②	動物性食品の衛生について理解する
第37回目～第38回目	食品衛生③	食品衛生管理手法について理解する
第39回目～第40回目	まとめ	学期末試験対策

科目名	動物内科看護学Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療について理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	心電図と血圧に関わる技術	血圧測定の方法と意義、注意点
第2回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術①	X線検査の目的と意義
第3回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術②	放射線防護、X線検査の実施方法と撮影体位
第4回目	X線検査とCT/MRIに関わる技術③	フィルムの現像とデジタルX線撮影、CT 及びMRI
第5回目	超音波検査に関わる技術①	超音波検査の目的と実施方法、保定体位
第6回目	超音波検査に関わる技術②	Bモード、Mモード、ドップラー法
第7回目	内視鏡検査に関わる技術③	内視鏡検査の目的と意義
第8回目	内視鏡検査に関わる技術④	内視鏡検査の実施方法、準備事項、スコープの洗浄・消毒法
第9回目	神経学的検査に関わる技術①	姿勢反応と脊髄反射
第10回目	神経学的検査に関わる技術②	脳神経の検査法
第11回目	神経学的検査に関わる技術③	神経学的検査の評価記録法
第12回目	神経学的検査に関わる技術④	神経学的検査まとめ
第13回目	眼科検査に関わる技術①	シルマー試験、フルオレセイン試験の方法と意義
第14回目	眼科検査に関わる技術②	眼圧測定の方法と意義
第15回目	眼科検査に関わる技術③	眼底検査の方法と意義
第16回目	皮膚と耳の検査に関わる技術①	皮膚病変の観察と記録法
第17回目	皮膚と耳の検査に関わる技術②	皮膚掻爬試験、スタンプ検査、被毛検査、皮膚生検
第18回目	皮膚と耳の検査に関わる技術③	ウッド灯検査と真菌培養法
第19回目	皮膚と耳の検査に関わる技術④	外耳道の検査方法と意義
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学各論Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	新井 博子	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床検査学各論についてを理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	整形外科疾患①	骨折、脱臼、膝蓋骨脱臼、関節炎、変形性関節症
第3回目～第4回目	整形外科疾患②	前十字靭帯断裂、股異形成、レッグペルテス病、骨肉腫
第5回目～第6回目	皮膚疾患①	膿皮症、脂漏症、アトピー性皮膚炎、ノミアレルギー性皮膚炎、好酸球性肉芽腫、食物アレルギー、天疱瘡
第7回目～第8回目	皮膚疾患②	外耳炎、疥癬、耳ヒゼンダニ症、毛包虫症、皮膚糸状菌症、マラセチア皮膚炎、メラノーマ
第9回目～第10回目	神経疾患①	脳炎、水頭症、てんかん、ウォブラー症候群
第11回目～第12回目	神経疾患②	椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、馬尾症候群
第13回目～第14回目	眼疾患①	結膜炎、角膜炎、乾性角結膜炎、角膜潰瘍、ぶどう膜炎、緑内障、白内障
第15回目～第16回目	眼疾患②	核硬化症、流涙症、第三眼瞼腺脱出(チェリーアイ)、異所性睫毛
第17回目～第18回目	造血器・免疫介在性疾患①	免疫介在性溶血性貧血、ネギ中毒、ヘモプラズマ症、パペシア症、腎性貧血、血友病、猫伝染性腹膜炎
第19回目～第20回目	造血器・免疫介在性疾患②	猫白血病ウイルス(FeLV)感染症、猫免疫不全ウイルス(FIV)感染症、リンパ腫、白血病、肥満細胞腫
第21回目～第22回目	緊急疾患①	交通事故、感電、熱傷、熱中症
第23回目～第24回目	緊急疾患②	中毒、誤飲、ショック、アナフィラキシー
第25回目～第26回目	担当動物の看護①	がんの診断のための検査と治療の手順について理解する
第27回目～第28回目	担当動物の看護②	がんの診断のための検査と治療の手順について理解する
第29回目～第30回目	担当動物の看護③	腫瘍随伴症候群について理解する
第31回目～第32回目	担当動物の看護④	腫瘍随伴症候群について理解する
第33回目～第34回目	担当動物の看護⑤	がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する
第35回目～第36回目	担当動物の看護⑥	がんの治療を受けている動物の看護援助について理解する
第37回目～第38回目	担当動物の看護⑦	担当動物の治療と化学療法の副作用について理解する
第39回目～第40回目	担当動物の看護⑧	担当動物の治療と化学療法の副作用について理解する



科目名	動物生活環境学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の行動様式を理解した上で、家庭等における飼養環境の整備、ペット共生住宅、ドッグラン、保護収容施設など各種施設での整備・管理の方法、ペットの事故やケガ等のリスクを除去する為の方法や飼育マナーについて学び、人とペットの共生のための生活環境のあり方を理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物形態機能に関する実習を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書10巻(エデュワードプレス)		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な講義になるが、テーマによっては一斉実習の機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	飼養環境整備①	犬と猫の使用環境整備に関わる法律、基準
第2回目	飼養環境整備②	犬の使用環境整備、猫の使用環境整備
第3回目	飼養環境整備③	犬たち猫たちとの暮らし方、シニアペットとの暮らし方
第4回目	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン①	ペットツーリズムの現状と実施方法
第5回目	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン②	ペット同伴宿泊施設の環境整備と管理
第6回目	ペットツーリズム関連施設、ドッグラン③	ドッグランの環境整備と管理
第7回目	保護収容施設①	動物愛護管理センター等の役割
第8回目	保護収容施設②	動物収容保護施設での飼養管理
第9回目	保護収容施設③	災害時のシェルターの役割
第10回目	ペットへの教育・訓練施設①	ペットの飼育に関する課題、教育との関係性
第11回目	ペットへの教育・訓練施設②	飼い主教育における愛玩動物看護師の役割
第12回目	ペットへの教育・訓練施設③	社会化トレーニングの基礎、パピークラスの教育内容
第13回目	動物介在教育施設①	法的背景
第14回目	動物介在教育施設②	学校飼育動物等の施設の環境整備
第15回目	動物介在教育施設③	学校飼育動物等の施設の管理
第16回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応①	飼育マナーの必要性や目的
第17回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応②	飼育マナーの歴史、地域における飼育マナーの違い
第18回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応③	地方自治体における飼育マナーに関する各種条例
第19回目	飼育のマナー・事故等のリスクへの対応④	ペット保険の概要
第20回目	まとめ	課題問題、総まとめ

科目名	動物形態機能学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物形態機能に関する実習を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は実践的な実習になるが、テーマによっては一斉講義の機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	運動器①	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
第2回目	運動器②	骨格標本を用いて代表的な骨を観察し、名称と特徴について理解する
第3回目	運動器③	代表的な関節の名称と構造、機能について理解する
第4回目	運動器④	代表的な関節の名称と構造、機能について理解する
第5回目	運動器⑤	代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する
第6回目	運動器⑥	代表的な骨格筋の名称と構造、機能について理解する
第7回目	内臓器官①	模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する
第8回目	内臓器官②	模型などを用いて、主要な内臓器官の配置について理解する
第9回目	内臓器官③	生殖器の雌雄差について理解する
第10回目	内臓器官④	生殖器の雌雄差について理解する
第11回目	顕微鏡の取扱い①	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する
第12回目	顕微鏡の取扱い②	顕微鏡各部位の名称、鏡検条件について理解する
第13回目	顕微鏡の取扱い③	顕微鏡の適切な操作法について修得する
第14回目	顕微鏡の取扱い④	顕微鏡の適切な操作法について修得する
第15回目	顕微鏡の取扱い⑤	顕微鏡の適切な管理法について修得する
第16回目	顕微鏡の取扱い⑥	顕微鏡の適切な管理法について修得する
第17回目	組織像の観察①	主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
第18回目	組織像の観察②	主要臓器の組織像を顕微鏡で観察し、特徴について理解する
第19回目	組織像の観察③	組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する
第20回目	組織像の観察④	組織像に見られる代表的な構造に関し、機能との関係について理解する

科目名	動物内科看護学実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 後期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	内科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書7巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	診察補助業務①	犬の保定、聴診器や体温計の扱い
第2回目	診察補助業務②	犬の保定、注射器の扱い
第3回目	診察補助業務③	犬の保定、注射器の扱い
第4回目	診察補助業務④	猫の保定、採血手順
第5回目	診察補助業務⑤	猫の保定、採血手順
第6回目	診察補助業務⑥	猫の保定、採血手順
第7回目	診察補助業務⑦	薬剤の取扱い
第8回目	診察補助業務⑧	薬剤の取扱い
第9回目	診察補助業務⑨	経口投与・注射の手順
第10回目	診察補助業務⑩	経口投与・注射の手順
第11回目	診察補助業務⑪	輸液ポンプ、シリンジポンプ
第12回目	診察補助業務⑫	輸液ポンプ、シリンジポンプ
第13回目	生体検査①	心電図検査を実施し、結果を記録
第14回目	生体検査②	X線撮影のための基本的な保定
第15回目	生体検査③	超音波検査のための基本的な保定
第16回目	生体検査④	神経学的検査の所見を記録
第17回目	生体検査⑤	眼科検査(シルマー試験、フルオレセイン試験、眼底検査など)の補助
第18回目	生体検査⑥	皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第19回目	生体検査⑦	皮膚検査(搔爬試験、スタンプ検査、被毛検査など)の補助
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物外科看護学実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、繰り返しに実践する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	外科診療を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書8巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	術前準備①	手術器具の準備、滅菌
第2回目	術前準備②	手術衣、タオル・ドレープ類の準備、滅菌
第3回目	術前準備③	手術に必要な機器、器械台の準備
第4回目	術前準備④	手術台への動物の固定、術野の消毒
第5回目	術前準備⑤	手洗い、手術衣や手袋の装着
第6回目	術中補助①	麻酔器の各部名称や使用法
第7回目	術中補助②	モニター機器(心電図、血圧計など)の接続
第8回目	術中補助③	麻酔記録の作成
第9回目	術中補助④	直接補助(器械の受渡しなど)
第10回目	術中補助⑤	間接補助(无影灯、保温マットの操作など)
第11回目	術中補助⑥	歯科器具の取扱い、歯科処置(歯石除去など)の補助
第12回目	術後管理①	術後の創傷管理
第13回目	術後管理②	術後の創傷管理
第14回目	術後管理③	動物への包帯(粘着性、自着性など)の装着
第15回目	術後管理④	抜糸補助
第16回目	救急救命①	必要な機材、薬剤の準備
第17回目	救急救命②	気管挿管補助
第18回目	救急救命③	心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)
第19回目	救急救命④	心肺蘇生(人工呼吸、心マッサージ)
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物臨床看護学実習Ⅱ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を習得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物臨床看護学を理解し、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉実習になるが、テーマによっては講義なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	動物看護過程	動物看護過程の復習
第2回目	経過に基づく動物看護①	ライフステージ別の動物看護
第3回目	経過に基づく動物看護②	ライフステージ別の動物看護
第4回目	経過に基づく動物看護③	急性期の動物看護
第5回目	経過に基づく動物看護④	回復期の動物看護
第6回目	経過に基づく動物看護⑤	慢性期の動物看護
第7回目	経過に基づく動物看護⑥	終末期の動物看護
第8回目	経過に基づく動物看護⑦	終末期の動物看護(褥瘡、体位変換、清拭)
第9回目	経過に基づく動物看護⑧	終末期の動物看護(褥瘡、体位変換、清拭)
第10回目	輸液管理①	輸液管理のための基礎知識、輸液に必要な器具機材
第11回目	輸液管理②	輸液に必要な器具機材
第12回目	疼痛管理①	疼痛とは、痛みの評価
第13回目	疼痛管理②	疼痛とは、痛みの評価
第14回目	栄養管理①	非経腸栄養法、経腸栄養法、流動食
第15回目	栄養管理②	非経腸栄養法、経腸栄養法、流動食
第16回目	ターミナルケアとは	ターミナルケアの目的・意義、事例を用いたターミナルケアの実践
第17回目	動物の看取り	入院動物・在宅療養動物の死・飼い主への対応
第18回目	エンゼルケア①	エンゼルケアの目的・意義・方法・実践
第19回目	エンゼルケア②	エンゼルケアの目的・意義・方法・実践
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	動物看護総合実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	今までの学習の成果を発揮し、内定を頂く。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	特になし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	90時間習得しなければならない。		

#### 授業計画内容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組み、実習の成果を上げる。

獣医療現場での愛玩動物看護師としての役割を理解し、自身の目標とする愛玩動物看護師を目指す先に内定を頂く。

##### 1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

##### 2. 実習(就職実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・保定補助
- ・手術助手
- ・調剤補助
- ・各種検査
- など

##### 3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状
- ・実習を通して得た課題の確認

科目名	グルーミング実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	赤坂 成美・伊井 由莉香・小木曾 佳美	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	飼い主様の要望に応えられるようペットカットを学ぶ。実際に一般のご家庭のペットにも協力をしてもらい、オーダーからお返しをするまでの一連の流れを理解する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個体に応じたグルーミングが安全にできるよう身につける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	グルーミング教具		
成績評価の方法・基準	平常点・出席率等及び実技試験の点数を考慮し評価する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	カット実習①	実習犬でのカット実習
第4回目～第6回目	カット実習②	実習犬でのカット実習
第7回目～第9回目	カット実習③	実習犬でのカット実習
第10回目～第12回目	カット実習④	実習犬でのカット実習
第13回目～第15回目	カット実習⑤	実習犬でのカット実習
第16回目～第18回目	カット実習⑥	実習犬でのカット実習
第19回目～第21回目	カット実習⑦	実習犬でのカット実習
第22回目～第24回目	カット実習⑧	実習犬でのカット実習
第25回目～第27回目	カット実習⑨	実習犬でのカット実習
第28回目～第30回目	カット実習⑩	実習犬でのカット実習
第31回目～第33回目	カット実習⑪	実習犬でのカット実習
第34回目～第36回目	カット実習⑫	実習犬でのカット実習
第37回目～第39回目	カット実習⑬	実習犬でのカット実習まとめ
第40回目～第42回目	カット実習⑭	実習犬でのカット実習まとめ
第43回目～第45回目	カット実習⑮	実習犬でのカット実習まとめ

科目名	動物飼育管理実習Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛	実務経験のある教員科目	該当は○記入 ○
科目概要	実際に動物を世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	修得した知識の実践力を身に付ける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	動物を扱った実習にふさわしい身だしなみ。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	飼育実習①	飼育環境を整える
第3回目～第4回目	飼育実習②	飼育環境を整える
第5回目～第6回目	飼育実習③	飼育環境を整える
第7回目～第8回目	飼育実習④	飼育環境を整える
第9回目～第10回目	飼育実習⑤	飼育環境を整える
第11回目～第12回目	飼育実習⑥	指導力を身につける
第13回目～第14回目	飼育実習⑦	指導力を身につける
第15回目～第16回目	飼育実習⑧	指導力を身につける
第17回目～第18回目	飼育実習⑨	指導力を身につける
第19回目～第20回目	飼育実習⑩	指導力を身につける
第21回目～第22回目	飼育実習⑪	動物種別の健康管理
第23回目～第24回目	飼育実習⑫	動物種別の健康管理
第25回目～第26回目	飼育実習⑬	動物種別の健康管理
第27回目～第28回目	飼育実習⑭	動物種別の健康管理
第29回目～第30回目	飼育実習⑮	動物種別の健康管理
第31回目～第32回目	飼育実習⑯	動物種別の健康管理
第33回目～第34回目	飼育実習⑰	動物種別の健康管理
第35回目～第36回目	飼育実習⑱	総まとめ
第37回目～第38回目	飼育実習⑲	総まとめ
第39回目～第40回目	飼育実習⑳	総まとめ



科目名	応用動物看護学実習		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	実習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	動物病院等	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物病院の繁忙期体験することにより、就職後をイメージし自分に足りない知識・技術を高める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	愛玩動物看護師として必要な知識や自覚を習得する。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	実習は原則学校が定めた動物病院において実施する。なお実習中に不足の事態が生じた場合は、三者(学校・学生・動物病院)で協議して行う。評価は学校が定めた基準の実習評価表に実習先より評価を頂く。		
履修に当たっての留意点	30時間習得しなければならない。		

#### 授業計画内容

実習の目的をよく理解し、実習がそれぞれ実習先の特別なご好意とご配慮によってなされることを念頭において目的を達成するために真剣に取り組む、実習の成果を上げる。

獣医療現場から専門職としての意識を学び、自己の課題を見つける。

#### 1. 実習準備

- ・事前訪問予約
- ・持ち物・実習の内容等確認

#### 2. 実習(実践実習)

- ・諸注意事項確認
- ・実習日誌を書く(感想・反省・自己評価)
- ・フィラリア検査
- ・フィラリア予防薬の準備
- ・狂犬病予防注射
- など

#### 3. 実習後指導

- ・実習日誌まとめ提出
- ・お礼状
- ・実習を通して得た課題の確認

科目名	動物介護学		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	田中 里恵	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	近年飼育されている犬猫の間にも高齢化が進み、動物にも介護が必要な時代になってきている。介護の知識・技術を修得する。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	動物介護の実践力を身につけ、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書9巻(エデュワードプレス) 動物看護実習テキスト第3版		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になるが、テーマによっては実践的な動きを学ぶ機会なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	基礎知識①	高齢期とは
第2回目	基礎知識②	高齢期の運動①
第3回目	基礎知識③	高齢期の運動②
第4回目	基礎知識④	高齢期の食事①
第5回目	基礎知識⑤	高齢期の食事②
第6回目	場面に合わせた介護方法①	環境整備
第7回目	場面に合わせた介護方法②	環境整備
第8回目	場面に合わせた介護方法③	歩行
第9回目	場面に合わせた介護方法④	歩行
第10回目	場面に合わせた介護方法⑤	排泄
第11回目	場面に合わせた介護方法⑥	排泄
第12回目	場面に合わせた介護方法⑦	食事
第13回目	場面に合わせた介護方法⑧	食事
第14回目	場面に合わせた介護方法⑨	入浴
第15回目	場面に合わせた介護方法⑨	入浴
第16回目	場面に合わせた介護方法⑩	高齢期に起こりやすい病気①
第17回目	場面に合わせた介護方法⑪	高齢期に起こりやすい病気②
第18回目	場面に合わせた介護方法⑫	高齢期に起こりやすい病気③
第19回目	場面に合わせた介護方法⑬	投薬
第20回目	まとめ	学期末試験対策、復習

科目名	国試対策		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 後期
授業時数	90時間	単位数	3単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	愛玩動物国家資格に向けて、弱点の克服、さらなる内容の理解を深める。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	個々の弱点に応じた対策を講じて、愛玩動物看護師国家試験の合格を目指す。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	愛玩動物看護師カリキュラム準拠教科書1～10巻(エデュワードプレス) 国家資格対策問題集		
成績評価の方法・基準	国家試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は一斉講義になる。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第3回目	現状把握①	過去問題を実施し、自身の弱点や得意分野を見つける
第4回目～第6回目	現状把握②	過去問題を実施し、自身の弱点や得意分野を見つける
第7回目～第9回目	課題克服①	自らの弱点を克服するため、個々の課題を分析
第10回目～第12回目	課題克服②	分析した課題を克服するための手法を実践
第13回目～第15回目	全体講習①	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第16回目～第18回目	全体講習②	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第19回目～第21回目	全体講習③	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第22回目～第24回目	全体講習④	学生の苦手とする分野を集中的に学ぶ
第25回目～第27回目	現状把握③	過去問題を実施し、自身の成長を確認
第28回目～第30回目	現状把握④	過去問題を実施し、自身の成長を確認
第31回目～第33回目	過去問題①	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第34回目～第36回目	過去問題②	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第37回目～第39回目	過去問題③	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第40回目～第42回目	過去問題④	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第43回目～第45回目	過去問題⑤	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第46回目～第48回目	過去問題⑥	過去問題を実施し、解答の仕方や時間配分などのポイントを解説
第49回目～第51回目	試験対策①	1人ひとりに合った個別指導を実施
第52回目～第54回目	試験対策②	1人ひとりに合った個別指導を実施
第55回目～第57回目	試験対策③	1人ひとりに合った個別指導を実施
第58回目～第60回目	試験対策④	1人ひとりに合った個別指導を実施

科目名	検定対策Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 通年
授業時数	60時間	単位数	2単位
授業方法	演習	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	木村 樹璃愛・高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	動物看護師統一認定試験の出題傾向を認識し、さまざまな過去問題を繰り返し解くことで、各分野の理解度を上げる。また、独自のまとめノートを作成し、苦手分野の克服を図り、正答率の向上を目指す。		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	取得した知識の実践をみにつける。		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	テキスト・過去問題集など		
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により判断する。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は演習問題を繰り返すため、主体的に取り組み理解を深める学習をしてほしい。また、テーマによっては、講義も行う。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目～第2回目	過去問題①	過去問題、解説
第3回目～第4回目	過去問題②	過去問題、解説
第5回目～第6回目	過去問題③	過去問題、解説
第7回目～第8回目	過去問題④	過去問題、解説
第9回目～第10回目	過去問題⑤	過去問題、解説
第11回目～第12回目	過去問題⑥	過去問題、解説
第13回目～第14回目	過去問題⑦	過去問題、解説
第15回目～第16回目	過去問題⑧	過去問題、解説
第17回目～第18回目	過去問題⑨	過去問題、解説
第19回目～第20回目	過去問題⑩	過去問題、解説
第21回目～第22回目	過去問題⑪	過去問題、解説
第23回目～第24回目	過去問題⑫	過去問題、解説
第25回目～第26回目	過去問題⑬	過去問題、解説
第27回目～第28回目	過去問題⑭	過去問題、解説
第29回目～第30回目	過去問題⑮	過去問題、解説
第31回目～第32回目	過去問題⑯	過去問題、解説
第33回目～第34回目	過去問題⑰	過去問題、解説
第35回目～第36回目	過去問題⑱	過去問題、解説
第37回目～第38回目	過去問題⑲	過去問題、解説
第39回目～第40回目	総まとめ	最終確認問題、解説

科目名	就職実務Ⅲ		
学科名	動物看護学科		
分類	必修	配当年次・学期	3年次 前期
授業時数	30時間	単位数	1単位
授業方法	講義	企業等との連携	該当は○記入
担当教員	高橋 瞳	実務経験のある教員科目	該当は○記入
科目概要	就職対策を実践し、就職内定を円滑にいただけるように準備をする		
到達目標 (目指す検定・資格を含む)	就職内定		
使用教材・教具 (使用するテキスト等)	なし		
成績評価の方法・基準	授業態度及び出席率にて評価。 ただし、出席率が70%を下回る場合は不可となる。		
履修に当たっての留意点	授業の主体は講義になるが、テーマによっては実技演習なども取り入れていく。		

授業計画	テーマ	内容
第1回目	履歴書①	履歴書の内容確認
第2回目	履歴書②	履歴書の作成
第3回目	履歴書③	履歴書の作成
第4回目	面接練習①	模擬面接
第5回目	面接練習②	模擬面接
第6回目	面接練習③	模擬面接
第7回目	企業研究①	就職希望の企業を研究
第8回目	企業研究②	就職希望の企業を研究
第9回目	企業研究③	就職希望の企業を研究
第10回目	就職活動①	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第11回目	就職活動②	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第12回目	就職活動③	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第13回目	就職活動④	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第14回目	就職活動⑤	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第15回目	就職活動⑥	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第16回目	就職活動⑦	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第17回目	就職活動⑧	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第18回目	就職活動⑨	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第19回目	就職活動⑩	就職活動を実施(面接、内定届け等)
第20回目	就職活動⑪	就職活動を実施(面接、内定届け等)